

今月の

用語

隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【スピリチュアルペイン】

〔英〕 spiritual distress

〔和〕 スピリチュアルペイン

〔類〕 実存的苦痛, existential distress, スピリチュアルな痛み, 靈的苦痛

【用語解説】

身体的苦痛, 精神的苦痛, 社会的苦痛とともに全人的苦痛の一つとして挙げられる苦痛である。spiritualとは「靈的」「宗教的」「崇高な」などを意味するが「スピリチュアルペイン」はその含まれる意味や定義の幅広さから, 適切な邦訳がなく, スピリチュアルペインとカタカナで使用されている。スピリチュアルペインとは, 人間の存在や意味を構成する本質的な要素(関係性・自律性・時間性)の喪失によって生じる苦痛である。つまり, 他者との関係が損なわれたり, 自分の事が自分でコントロールできない状況が生じたり, 病のために将来が脅かされたりすることによって苦痛が生じ, 患者は「どうして生まれて来たのか」「どうして自分ががんになったのか」「自分は何か悪いことをしたのか」「バチがあたった」「家族の負担になりたくない」「これまでの人生は無駄だった」「どうしてこんなに辛いのか」などと表現をする。死が近づいた終末期に多くの患者が経験する代表的な苦痛の一つであるが, がん罹患後の様々な場面, つまり抗がん治療期, 根治後のサバイバーシップの患者の置かれる社会生活の中でスピリチュアルペインをもつことは珍しくない。これを和らげるケアをスピリチュアルケアと呼ぶが確立した方法があるわけではなく, 援助的コミュニケーションが重要である。スピリチュアルペインを和らげることが難しい場合, 医療者は, 患者の尊厳を尊重し患者がスピリチュアルペインをもちながらも折り合いをつけて生きていくことができるように寄り添うケアを行うことが求められる。

【その他必要事項(本用語とつながりの深い専門分野, 関連学会など)】

終末期医療, 緩和ケア, 日本緩和医療学会, 死の臨床研究会, 日本ホスピス緩和ケア協会

(国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 里見 絵理子)

本誌285pに記載